

平成26年度 関西大学 研修員

研究支援グループ

| 学部 | 人数枠 | 資格 | 氏名 | 期間 | 主たる研究先 | 研究内容の概要 | 備考 |
|----|--|-----|--------|-----------------------|--|---|----|
| 法 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | 教授 | 栗田 隆 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 関西大学研究室・資料室 2. 関西大学総合図書館 | Web上で、教育分野に関する教材「破産法学習ノート2」「民事訴訟法講義」「民事執行法概」を完成させる。またこれまでの研究成果を書籍にまとめる。 | |
| 文 | 春学期2名 秋学期1名 または 春学期1名 秋学期2名 の3名以内 | 教授 | 井上 泰山 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. スペイン マドリッド自治大学 2. オランダ ライデン大学 3. 中国 復旦大学古籍研究所 4. 内閣文庫 5. 国立国会図書館 6. 関西大学図書館 | 内閣文庫及び国立国会図書館等で情報収集を行なった後、スペインのマドリッド自治大学に赴き、東亜研究センター所長であるタシアナ・フィサク教授の協力を仰いでスペイン国内の各地の図書館や修道院に収蔵されている中国の古書を調査する。その後、オランダのライデン大学漢学研究院や復旦大学古籍研究所を訪問し、中国文学関連文献を調査する。 | |
| | | 教授 | 大島 薫 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. ドイツ デュッセルドルフ大学 2. ベルギー ルーヴェン大学 3. 関西大学(個人研究室、総合図書館) 4. 寂照山成菩提院他(聖教を蔵する寺院) | ①デュッセルドルフ大学並びにルーヴェン大学において海外で実施される「日本学」とくに若い世代が課題としようとしている「日本学」について調査する。②日本の聖教調査を通じて、日本人の精神史を辿り、その思想の形成、文化の諸相を明らかにしたい。 | |
| | | 教授 | 宮本 要太郎 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 関西大学(個人研究室、総合図書館) 2. 天理大学おやさど研究所 3. 金光教教学研究所 4. 社会福祉法人石井記念友愛社 5. 浦上養育院 | ①科研費による研究「無縁社会における宗教の可能性に関する調査研究」の成果をまとめて「釜ヶ崎の宗教」(仮題)として公刊する。②「子どもの福祉と宗教」をテーマに、関連する諸施設での調査訪問・資料収集をすすめ、その研究成果を順次発表する。 | |
| 経 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | 教授 | 清水 崇 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 関西大学個人研究室 2. 自宅 3. 大阪大学(大学院経済学研究科・社会経済研究所) 4. 関西学院大学経済学部 5. 東京大学大学院経済学研究科 | コミュニケーションの経済理論の研究を行なう。 | |
| | | 教授 | 樫原 正澄 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 関西大学(個人研究室、総合図書館) 2. 自宅 | 前半は、農産物の流通とマーケティング活動に関する研究成果を中心として、研究サーベイをして、地域農業振興の中核を構成する農業生産活動モデルを検討する。そのために、全国の先進的農業を視察・調査する。後半は、グローバル経済との関係で、農業・農政の変化について研究を進める。具体的には、TPP問題に見られるように、ゼロ関税、韓米FTA等について、実証的に研究する。 | |
| 商 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | 教授 | 水野 一郎 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 関西大学(個人研究室、総合図書館) 2. 九州大学、亜細亜大学 3. 中国社会科学院、北京工商大学、天津財経大学 4. 合肥工業大学、湖南大学、復旦大学、上海社会科学院 5. 青島ハイアール | 科研を中心にした私の過去10年にわたる研究成果を整理し、最近の中国会計の動向を文献的にフォローし、再考察する。そのため中国の大学や研究機関を訪問し、研究者と意見交換をし、新しい文献や資料を収集する。また日本でも中国会計や管理会計、社会関連会計の研究者と交流し、積極的に学会や研究会に参加し、研究報告を進めていく。上記、研究活動を展開しながら、研究成果を単著として纏める。 | |
| 社 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | 教授 | 関口 理久子 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 甲南女子大学人間科学部心理学科 | 第一の目的は、甲南女子大学の山田尚子教授と以下のような点について共同研究を行っており、これらの点について検討することである。①実行機能と日常の記憶や自伝的記憶との関連②実行機能と認知的な失敗との関連③実行機能と感情調節との関連④実行機能と自己制御との関連 第二の目的は、これらの研究成果をまとめ、国内外の学会・学術雑誌等に発表することである。 | |
| | | 准教授 | 佐藤 寛 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 関西学院大学文学部 | すでに効果が確認されている日本の大学生を対象としたうつ予防プログラムに基づき、このプログラムを実施できるセラピストの養成コースを開発する。関西大学と関西学院大学において新規セラピストを募り、5週間の養成コースに参加してもらう。養成コースを修了したセラピストに実際にプログラムのグループリーダーを担当してもらい、効果を確認する。この新規セラピストによるプログラムの効果を、これまでにグループリーダーを複数回経験したセラピストによるプログラムの効果と比較することで、養成コースが十分な訓練機能を持っているかどうか検証する。 | |
| 政策 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | 准教授 | 橋口 勝利 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 京大大学人文科学研究科 | 4月～6月 史資料収集(神戸大学所蔵鐘紡史料調査、ユニチカ記念館調査、東洋紡社史編纂室調査) 7月～8月 史資料データ分析、入力 9月～10月 研究論文作成 | |

平成26年度 関西大学 研修員

研究支援グループ

| 学部 | 人数枠 | 資格 | 氏名 | 期間 | 主たる研究先 | 研究内容の概要 | 備考 |
|-----|--------------------------------|----|--------|-----------------------|---|---|----|
| 外国 | 春学期1名 または 秋学期1名 の1名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 人間 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | 教授 | 狭間 香代子 | H26.10.1～ H27.3.31 | 1. 自宅 2. 個人研究室 3. 福祉機関や施設(相談支援センター、地域包括支援センター等) | 地域社会での社会資源をソーシャルワーカーがいかに開発しているかに関する研究①相談支援専門員が地域での相談に際して、利用者のニーズに応じて、社会資源を調整したり、創り出したりする過程についての質的調査をまとめる。②ソーシャルワーク実践理論における社会資源開発についてのスキルに関する先行研究をまとめる。 | |
| 総情 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | 教授 | 古賀 広志 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 神戸大学 2. 個人研究室 3. 甲南大学 4. 中央大学 | 期間の前半は、いわゆる「リガーvs. レリバンス」に関する膨大な資料を整理し、文献レビュー論文をまとめ、次いで後半部分では、研究方法論とくに批判主義と解釈主義の研究をレビューし、事例研究を行う。研修終了後には、研究成果をまとめて公表する。また、国際大会でも精力的に報告していく。 | |
| | | 教授 | 伊藤 俊秀 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 京都大学大学院工学研究科 2. 秋田大学国際資源学教育研究センター | 京都大学大学院工学研究科地殻環境工学講座と共に資源探査分野および鉱山開発におけるクリギング法を中心とした地球統計学的手法の適用に関する共同研究をすすめる。他方で、秋田大学国際資源学教育研究センターと共に西南アジアにおける鉱物資源開発の現況と将来の供給可能性に関する共同研究を行う。 | |
| 社安 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | 教授 | 安部 誠治 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 自宅 2. 社会安全学部研究室 3. 運輸安全委員会 4. 消費者安全調査委員会 | 社会安全学の体系化のための研究書執筆の作業を行う。 | |
| シス理 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 環都 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 化生 | 春学期1名 秋学期1名 の2名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 法務 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | 教授 | 若松 陽子 | H26.4.1～ H26.9.20 | 1. 自宅 2. 個人研究室 3. 歯科大学及び大学の歯学部 | ①文献と判例の収集と分析②学会や講習会への参加③歯科及び医事法研究者との意見交換④臨床歯科の見学とヒアリング⑤外国文献の調査⑥昨今の問題事例の分析⑦成果発表のためのまとめ⑧論文や著書の作成と発表 | |
| 会計 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | 教授 | 坂口 順也 | H26.9.21～ H27.3.31 | 1. 同志社大学 2. 関西大学 3. 自宅 | 研究成果を見直し、必要な修正を加えて著作の文献レビューに関する各章を完成させる。ここでは、日本企業の組織間協働に先行する統治構造の決定にかかわる隣接領域の研究や欧米企業を対象とした管理会計研究がレビューの対象となる。次に、こうした文献レビューに関する各章を踏まえ、日本企業から過去に獲得したデータを再度分析し、仮説の設定とその検証にかかわる各章を完成させる。 | |
| 心理 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 教育 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | | 被選考者なし | | | | |
| 国際 | 春学期1名または 秋学期1名 の1名以内 | | 被選考者なし | | | | |